



## 施設園芸技術指導士としての抱負

井上 直彦 イノチオアグリ(株)

施設園芸技術指導士は施設園芸に精通し、技術的な助言・指導を行う事ができる技術者として、その活動と活躍が期待されています。今回私は施設園芸指導士としての役割を頂き、施設園芸に携わる者として少しでも農業に貢献できればとの思いを強くしています。

私が勤務しているイノチオグループは1909年の創業以来、農業を総合的に支援するグループとして全国に展開している会社です。元々の発祥は愛知県の田原市で、現在創業110年を超えています。農家様とともに農業ビジネスを展開し、農業の総合会社として農業を通じて命のあり方を見つめ、未来へ繋ぎ、担い手を育てる、お客様の様々な課題に対して困った時に真っ先に頼って頂ける、そのような農業のファーストコールカンパニーを目指して歩んでいます。さらに近年は持続可能な農業への貢献を目指し、SDGsにも積極的に取り組んでいます。現在も事業活動とSDGsを連携させた経営を推進しており、企業としての取組とともに従業員一人一人の意識を高めるために取組の情報を共有し、社内研修などを充実させています。新たにイノチオでは生産現場のCO<sub>2</sub>量を算出し、削減に向けた具体的なアイデアを出し合って環境問題の解決に向けた取組を進めており、この活動を積極的に情報発信しています。

施設園芸に関しても環境への配慮とともに日本農業の生産性向上への貢献が期待されるスマート農業の実践を積極的に展開しており、環境制御装置の自動化・養液栽培・農業機械のICT化やロボット化による生産性を効

率化・省力化する取組を進めています。それとともに新品種の開発や栽培方法の確立、良い土壌作りなどによって安定した経営を持続することも持続可能な農業と社会を実現するためには不可欠です。このSDGsが一人一人の意識の中に浸透していくように、私もまずは身近で出来る事を実践しつつ、幅広い方々と協力して農業をよりよい未来へと導いていきたいと思っています。

現在の施設園芸が抱える問題としては、高齢化や施設の設置面積の減少化傾向が挙げられます。新たに施設面積を拡大して収量を上げていきたいと思っても、ハウス自体にかかる設備投資が高い割に作物自体の単価が上がらず、高品質・高い収量を上げて設備投資額がかさみ、最終的に利益が少ないという現実が根本にあると感じています。持続可能な生産活動を実現していくためには、このような様々な問題を解決して行かなければなりません。施設園芸は生産性の大幅な向上が見込め、品質・収量を安定させやすく、病害も軽減できるなど、誰でも参入したいと思う未来ある分野です。私たちは施設園芸分野の取組として生産者とともにニーズにあった新しい価値を生み出し、それを具体的な製品やサービスとして届け、より多くの方に農業に携わって頂けるように貢献して参ります。

農業はまだまだ可能性が十分ある分野であると思っています。今まで培った知識や技術、これから身に付ける新しいスキルを活かして未来の施設園芸を発展させられるよう、微力ではありますが力になればと思います。